

科目名	比較心理学特殊研究	担当者	オノ 小野 コウイチ 浩一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>比較心理学は、動物の生理、発達、認知、感情、行動などを調べ、ヒトのそれらと比較する。かつては動物心理学と呼ばれ、主として行動の探求が中心であったが、現在では認知や社会性などを調べる比較認知科学として研究が行われている。</p> <p>「比較心理学特殊研究」では、さまざまな動物を対象としたフィールド研究や実験的研究を通して動物とヒトとの共通性や違いについて学び、ヒトの「知性」とか「こころ」と呼ばれるものの起源について考えることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>(1) 比較心理学では、動物のどのような働き、現象を対象とするのか。そしてそれをどのような方法で調べ、その結果、どのようなことが分かってきたか、といった比較心理学の全体像について把握すること。</p> <p>(2) 実際の研究論文を読んで、その目的、方法、結果、研究の意義などが説明できること。</p>		
学修方法	<p>基本教材を通読した上で、レポート課題のテーマに沿って、その他の参考文献、資料を参考にしながら問題点を整理し、レポートの構想をまとめる。</p> <p>ただし、レポートの内容は必ずしも当初の構想のとおりでなくてよい。文を作っていく過程で新しい考えや材料が見つかることも多いので、最終的に論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のあるものを作成してほしい。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材1のレポート課題1・2の草稿は7月末を目処に提出する（別々でもよい）。 いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材2のレポート課題1・2の草稿は11月末を目処に提出する（別々でもよい）。 いずれの課題も2017年12月末までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	(1) レポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。
	平常評価	10%	受講姿勢（担当者との円滑なやりとりなど）
履修者への要望	<p>教材を読んでよく理解するよう努めてください。ここでよく理解できた状態とは、教材の章や節の内容を、それを知らない他領域の心理学専攻学部卒業生がよく分かるように、説明できることを指します。</p> <p>テーマに沿い、かつ論点が明確で躍動感のあるレポートを望みます。</p> <p>レポートは長ければいいというものではありません。かといってあまり短いのも困ります。その課題を記述するのに必要最小限の長さということを意識して書いてください。</p> <p>レポートに受講者自身の考えを盛り込むことを歓迎しますが、その際は、自分の意見と他者の意見とが区別できるような書き方の工夫をしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 藤田和生 教材名： 『比較認知科学への招待』（ナカニシヤ出版、1998年） ISBN:978-4-88848-437-4 2,500円+税  本書は比較認知科学の全体を網羅した学部学生向けの教科書である。最初に基本的な考えや研究方法が述べられ、次に学習や諸々の認知過程が具体的に解説される。加えて、コミュニケーション、社会的知性、意識など動物のいわゆる「こころ」の問題が扱われている。
参考図書	トーマス・ズデンドルフ（寺町朋子訳）『現実を生きるサル空想を語るヒトー人間と動物をへだてる、たった2つの違い』（白揚社 2015年）ISBN: 978-4-8260177-2 2,700円+税
履修上のポイント	本課題は到達目標（1）を達成するためのものである。基本教材によって比較認知科学の全体像を把握し、最新の参考書によって、比較心理学をめぐる諸問題について理解を深めていただきたい。
レポート課題 1	基本教材の第1章から第5章までを章ごとに要約し、かつ各章において受講生自身が考えたことを述べよ。 <b>留意点</b> ：字数配分は要約を75%、コメントを25%程度で、章ごとにまとめる。
レポート課題 2	基本教材の第6章から第10章までを章ごとに要約し、かつ各章において受講生自身が考えたことを述べよ。 <b>留意点</b> ：字数配分は要約を75%、コメントを25%程度で、章ごとにまとめる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： Ghosh, N., Lea, E. G., and Noury, M. 教材名： Transfer to intermediate forms following concept discrimination by pigeons: Chimeras and Morphs. <i>Journal of the Experimental Analysis of Behavior</i> , 82, 125-141.  ハトがイヌとネコを見分けることができるか、見分けることができるとしたらそれは何を手がかりとしているのか、さらに顔だけを手がかりとしてイヌとネコを識別できるか、などの疑問について実験的に調べた論文。どのような方法を用いてこのようないわゆるハトの「認識過程」を調べるのかがよくわかる教材である（履修者にはPDFファイルを送付する）。
参考図書	渡辺茂『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』（共立出版、1997年）ISBN:978-4-32-002857-9 2,400円+税
履修上のポイント	基本教材2は到達目標（2）を実現するためのものである。実験論文を読む場合は、方法(Method)の中の特に手続きのところを精確に解説することが大切である。不明の点があれば、遠慮なく担当教員に質問してほしい。参考図書も大いに参考になると思う。
レポート課題 1	基本教材2の論文について、実験1（序論、方法、結果、考察）、実験2（序論、方法、結果、考察）、総合考察に分けて日本語で要約した上で、最後に受講者自身のコメントを述べよ。 <b>留意点</b> ：字数配分は要約を75%、コメントを25%程度とする。
レポート課題 2	参考図書『ハトがわかればヒトが見えるー比較認知科学への招待』の序文に、著者は、比較認知科学を学ぶと新たに「見える」ものがあるはずだと書いている。本科目を履修して学ぶ中で、受講生各自にとって新たに「見えてきたもの」を5点あげ、その内容と選んだ理由を述べよ。